防災マニア

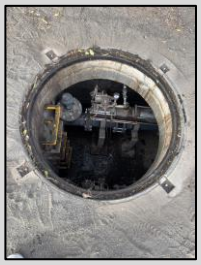
第11号
新田宿連合自治会
2026年1月

西中学校避難所開設訓練レポート

令和7年12月13日に、西中学校での避難所開設訓練が行われました。 初めてということもあり＊行政の方々、座間地区の方々、西中関係者の方々、入谷小コミスク関係、自主防災組織、自治会役員等、西中避難所運営委員のみの総勢28名で行いました。 今回の防災マニアは、その模様を報告します。

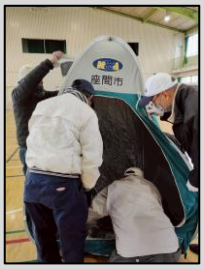
＊：平成26年にも一度行われていましたが、それ以来の仕切り直しです。

昨年5月に棚卸した防災倉庫を消防署の方に説明していただきました。古いトイレなどもあり、定期的に入れ替えを行う必要がありそうです。



校庭の地下には、水道水50トンの貯水槽があり、およそ3日分の新鮮な飲料水が確保されています。そこにポンプを付け、女性でも簡単に組み上げられました。

テントの設置をしました。2～3人で１つのテントを組み立てますが、非常に簡単にできました。
全部で128張り分用意されています。



非常用トイレの設置。テントを立て、その中に段ボールの便座を置きます。飲食は多少我慢できても、トイレはそうはいかないので、最初にやる作業になります。

最後にアルファ米の五目おこわを作って全員で試食しました。具材を混ぜて、お湯（水でも可）をかけて40分蒸らせば出来上がりです。とても美味しくお腹も膨れました。 他にはドライカレーなどもあるそうです。

校庭の寸法を測定しました。 ここはテントに入れなかった方々のために、車中泊できる駐車場になります。

訓　練　を　終　え　て

新田宿にとって大きな目標だった避難所開設訓練まで、ついにたどり着くことができました。まだ個々の体験にとどまっていますが、今後はそれらをつなぎ合わせ、自力で開設できるよう訓練を重ねていきます。

●座間市の想定倒壊戸数は約3,700　（重要な住宅の耐震性）

能登の震災と比べると、昨年12月8日の青森県東方沖地震は被害が小規模でした。住宅の耐震性の差が大きな要因とされています。**1981年6月に新耐震基準が導入され、震度7でも倒壊しない構造が求められるようになり、2000年にはさらに強化されました。**その結果、座間市では倒壊の恐れがある家屋が約11,000戸から現在は**約3,700戸まで減少しています**。1981年以前の建物でも、小規模な耐震工事を行えば倒壊を防ぐことができ、避難所生活を避けられる可能性が高まります。

●避難所の収容能力は150～200世帯　（周りの避難所開設も必要）

学校の体育館を使う一次避難所の収容力は、1か所あたり150～200世帯とされています。座間市には28か所の一次避難所がありますが、そのうち体育館を備えた大規模な避難所は20か所です。先ほどの3,700戸を20で割ると185戸となり、数字上は収まりそうに見えます。
しかし、西中学校の周辺にある**座間小、入谷小、座間高校は、まだ避難所開設の準備が進んでおらず、運営体制が整っていません。**震災時に周辺住民が西中学校へ集中すれば、収容能力を超える恐れがあります。座間小、入谷小、座間高校の避難所開設も同様に、決して他人事ではありません。私たちも市自連や行政と連携し、周辺避難所の開設体制を急ぐ必要があります。

●体験しないと見えてこない

事前に開設マニュアルを作成し、ある程度の知識を得ていても、実際に体験してみることで初めて気づく矛盾や発見があります。次回の訓練では、より多くの気づきを共有できるよう、地域の皆さんにもご参加いただきたいと考えています。

●大きかった中学生の「力」

訓練には、西中学校の生徒3名が参加してくれました。 皆さん、頭の回転が速く、動きも非常に機敏で、どの工程にも意欲的に取り組んでくれました。 訓練というと、つい他人事になりがちですが、自分のこととして真剣に向き合い、積極的に行動する姿はとても頼もしく、心から嬉しく思いました。 もし震災が大人の少ない日中に発生したとしても、きっと大きな力を発揮してくれることでしょう。

訓練翌日には、体験レポートを壁新聞にして、貼り出してくれたそうです。

防災マニアを休止して、制作を進めていた新田宿防災ハンドブックはほぼ完成しました。 今回は震災時と風水害時とを裏表に分け、A3サイズ1枚にまとめました。わかりやすく使いやすいように改良しました。今後は有識者にも内容面を見ていただき、評価してもらいます。 もうしばらくお待ちください。